



## 【中野の歴史－近世編11－】 飛んできた臼－淀橋水車爆発事件

2016.10.07 UP 投稿者：まるっと中野編集部

[\[中野の歴史\]](#) [\[近世編\]](#)


左／「淀橋水車模型」（歴史民俗資料館に展示）右／江戸名所図会に描かれた淀橋水車

幕末、ペリー来航やロシア船来航をきっかけに、江戸幕府は軍備増強を痛感し、お台場の築造、大砲の製造などに着手しました。焰硝(火薬)の製造には、江戸近郊の民間所有の穀物用の水車が駆り出され転用されました。淀橋のたもとにあった「淀橋水車」(現、新宿区北新宿2-22)もその一つです。

しかし、元々、火薬用の施設ではないため、操業開始後次々と爆発事故を起こし始めたのです。安政元年(1854)の3月5日に板橋宿原水車場、4月6日に牛込矢来下酒井家下屋敷水車場、4月12日には荏原郡小山水車場と2ヶ月間に3か所で爆発事故を起こしたのです。これには、淀橋周辺の人々も危険を感じ、連判で焰硝製造中止の願い出をしたのでした。その矢先の6月11日、淀橋水車は大爆発を起こしたのです。午前5時爆発、大小の水車小屋・建物・焰硝蔵(火薬庫)が次々と爆発しながら微塵もなく粉砕され、隣接している神田川のほとりの杉・ケヤキ・銀杏・松の大木ははねちぎれ、約400m西側の宝仙寺三重塔辺りまで折れた柱が三本飛び、500m離れた成願寺では爆発の震動で諸堂が破損したそうです。

また、約200m離れたところに、この時飛んできた径61cm・厚さ20cmの石臼が昭和初年まで残されており、この頃まで人々に鮮烈な記憶として残っていました。

(中野区立歴史民俗資料館館長 比田井克仁)

※問い合わせ先の記載がない記事については、まるっと中野編集部までお問い合わせ下さい。

掲載場所近隣の区民の皆様にご迷惑をおかけすることをご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。

※掲載情報は全て記事取材当時のものです。